

## 空間移動動詞 *mettre* と始動表現 *se mettre à Inf.*

佐々木 幸 太

### 0. はじめに

行為主体 *X* が対象 *Y* を場所 *Z* に移動させることを表す場合、フランス語では *mettre* を用いることがある。

(1) Voulez-vous **mettre** du sucre *dans votre café*?

(2) Il **a mis** *sa voiture au parking*.

辞書の記述や発話例を分析すると、*mettre* の基本義は *X* による *Y* の空間移動であるといえる。

他方、*mettre* は *Y* の状態変化や行為の開始を表す場合にも用いることができる。

(3) Il ne faut jamais **mettre** son chat *en colère*.

(4) Pour acheter une voiture, il s'est mis *à travailler encore plus*.

(谷口, 1991)

本稿の目的は、空間移動を基本義とする *mettre* が、*se mettre à Inf.* というアスペクトマーカの形成に役立つ仕組みを明らかにすることである。

そのために、まず 1 章で *Y* の位置変化を表す発話を分析し、2 章で対象の状態変化を表す発話を考察する。そして 3 章で、行為の開始を表す発話を考察する。事例の分析には、独自に採集したジャンルの異なる小説約 750 冊やデジタル版の新聞などをコーパスとして用いる。また特に出典の記載がないものは、事例にならってわれわれが作成し、インフォーマントのチェックを受けた発話である。

## 1. 空間移動用法

### 1. 1. 物の移動

本章では、*mettre* の基本義である空間移動用法を取り上げる。*mettre* を用いる一般的な発話例として (5), (6) のようなものを示すことができる。

(5) Elle s'est éloignée de moi, est entrée dans le bureau, **a mis le pistolet au coffre** et l'a refermé. (Easton, E. B., 2010, *Lunar Park*)

(6) Tu as mis des bougies sur la table? Richard eut un petit rire embarrassé.  
– Tu trouves que ça fait trop romantique?

(Hamilton, L. K., 2003, *Lunatic Café*)

(5) では「彼女」によって、「拳銃」がはじめなかった「金庫内」にあるようになる。(6) も、同じように *tu* がテーブルの上へろうそくを置くことで、テーブルの上へろうそくがあるようになる。このようにそれまで場所 *Z* になかった *Y* が、行為主体 *X* によって場所 *Z* に出現することを *mettre* を用いて表す<sup>(1)</sup>。

また場所 *Z* が不明の場合は *mettre* を用いることができない<sup>(2)</sup>。

(7) \* **Mets ton sac!** (Saunier, 1999)

(8) Je ne trouve pas mon stylo, je **l'ai pourtant mis quelque part**.

(染谷, 2005)

たとえば聞き手に鞆を置くことを促そうとしているとする。その場合文脈などで置く場所 *Z* が明らかになっていない場合は、(7) のように *mettre* を用いることはできない。しかし、場所 *Z* が特定されていなくてはならないのは、発話時ではない。例えば (8) でも、話し手は場所 *Z* を把握できていない。しかし *X* が *Y* を移動させる時点では、特定の場所 *Z* の存在が想定できる。

また、場所 *Z* が自明の場合は、場所 *Z* を明示する必要はない。(9) のように *mettre* を用いて衣服の着用を表す例が該当する。

(9) J'ai mis |le chapeau|la montre|.

(10) ??J'ai mis {le chapeau sur la tête|la montre au bras}.

帽子や腕時計は身につける場所が決まっている。頭部や腕に X が Y をつけることを *mettre* を用いて表すことができる。このように身につける場所が自明の場合は、場所 Z を言い添えると、逆に不自然な発話になる。

また、X の役割は、場所 Z に Y があるようにするきっかけとなることである。

(11) \*J'ai mis {mon sac à main|mon parapluie}.

帽子や腕時計は、身につけさえすればその後関与しなくても場所 Z にあり続ける。一方、鞆や傘は、身につけるだけでは不十分で、持ち続けたり差し続けたりしなくてはならない。このように、Y が場所 Z にあるために X が関与し続けなくてはならない場合は、*mettre* を用いることができない。

## 1. 2. 他者の移動

本節では、Y が X 以外の人や動物である場合を扱う。該当する例には (12), (13) がある。

(12) Puis, sans rien dire, elle **mit** le chat dehors et ferma la porte d'accès au poste de pilotage. (Werber, B., 2008, *le papillon des étoiles*)

(13) Moi, toujours, complètement saoule dans son appartement. Lui, protecteur, me mettant au lit, veillant sur moi pendant des heures après que je me fus endormie. (Mead, R., 2009, *succubus blues*)

(12) は、はじめ外に猫はいないが、猫を持ち上げるなどして外に出す。(13) ならば泥酔して一人で歩けない Y を、X がベッドまで運ぶ。このように X が物を移動させるかのように Y を Z にあるようにすることを表すために *mettre* を用いる。そのため、聞き手が Y である場合、場所 Z に Y がいるようになるために X が関与するのが不自然であると考えられる場面では *mettre* を用いるのが難しくなる。

(14) (言うことを聞かない子供に) Ecoute, si tu continues comme ça, je vais te mettre dehors!

(15) (父親を煙たく思っている娘が) ?Papa, si tu continues, je vais te mettre dehors!

(16) (レストランでウェ이터が客を快適なテーブルに案内する場面で) Je vous mets là, monsieur?

通常、親の決定などによって子供の居場所が変化することはあっても、子供の決定が親の居場所を制御するとは考えづらい。そのため、(15) のように X が子、Y が親の場合は *mettre* を用いるのが難しくなる<sup>(3)</sup>。

(16) はレストランのウェ이터の発言である。レストランでは、客が自分の席を勝手に決めて、席に着くことは許されない。まず店の側である X がテーブル(場所 Z)を選ぶ。そして X が客を場所 Z まで案内することで、場所 Z に客がいることが実現するものである。

### 1. 3. 行為主体自身の移動

続いて、X の行為がきっかけとなって、自分自身 Y の位置が変化する場合をみる。

(17) Papa a fait un gros soupir, il s'est mis à côté de maman, et moi j'ai pris les six dernières photos du rouleau.

(Goscinnny, R., 1963, *Les récrés du Petit Nicolas*)

(18) Le vent s'est levé sur la fin de la scène, formant des tourbillons de sable autour des deux garçons. Ils se lèvent pour aller se mettre à l'abri.

(Ferran, P., 1996, *Petits Arrangements avec les morts*)

X が自分自身が場所 Z にいるようになることを *mettre* に *se* を添えて表す。(17)、(18) で、*mettre* ではなく *aller* などの移動動詞を用いると、X がある場所から別の場所に移動することを表すための発話となる。*mettre* を用いると、X が行った何らかの行為の結果、自身が Z にいることが実現することを表す発話となる。そうすることで、(17) であれば母親の隣、(18) ならば砂嵐を凌げる場所に、それまでいなかった自分自身 Y がいることを実現させることができるようになる。

#### 1. 4. まとめ

以上, X による Y の空間移動を表すために用いる *mettre* を考察した。X は, Y の位置を Z に変化させるきっかけを生む。また, Y が場所 Z に存在し続けるために X が関与し続けることが必要な場合は, *mettre* を用いることができない。

## 2. 状態変化用法

本章では, X による Y の位置変化が基本義である *mettre* を, なぜ Y の状態変化を表すために用いることができるのかを考察する。

### 2. 1. 空間移動と状態変化

*mettre* を用いて Y の位置変化を表す場合, Y の持っている価値が変化することがある。

(19) (= (1)) Voulez-vous **mettre** du sucre *dans votre café*?

(20) (= (16)) (レストランでウェイターが<sup>§</sup>) Je vous **metts** *là*, monsieur?

(21) (= (18)) Le vent s'est levé sur la fin de la scène, formant des tourbillons de sable autour des deux garçons. Ils se lèvent pour aller se **mettre** *à l'abri*.

(19) ならばコーヒーの中にある砂糖は甘味料として働き, (20) であれば客は席に着けば食事をすることができる。そして, (21) では避難場所に移れば, 二人の少年は安全な状態になる。

特に人の場合は, 本来場所を表す名詞を役職などの意味で用いることで, (22) や (23) のように Y の社会的な立場の変化を表す場合もある。

(22) Il refuse de **mettre** ses filles *à l'école*, préférant faire venir une maîtresse dans les caravanes. (*Le Monde*, 25 décembre 2004)

(23) S'il devait faire une perquisition dans sa propre maison, il serait obligé de se **mettre** lui-même *en prison*. (Rowling, J. K., 1999, *Harry Potter et*

*chambre des secrets*)

(22) や (23) は、Z を物理的空間ではなく Y の社会的な立場を表すために用いている。(22) ならば、親が子を修学させることを *mettre* を用いて表す。(23) であれば、違法行為を取り締まる立場にありながら隠れて悪事を行っている X が自宅を家宅捜査をすることになれば、自分自身を囚人にするようになる。

## 2. 2. 状態変化

空間移動を伴わない場合であっても、Y のありかたが変化することがある。その場合も、Y が状態 Z になることを *mettre* を用いて表すことができる。該当する例として (24)～(26) が挙げられる。

(24) Vous tapez votre texte et si par exemple vous voulez **mettre le titre en gras**, il vous suffit de sélectionner le titre et de cliquer sur le bouton (. . .) (web)

(25) La pauvre enfant, on l'**a mise** malgré elle *dans une situation* compliquée, difficile! (Maruya, S., 1991, *Rébellions solitaires*)

(26) Si! Écoute, il vaut mieux en rester là, sinon je risque de me mettre en colère. (Rohmer, E., 1998, *Conte d'automne*)

(24) は Y が物、(25) は Y が他者、(26) は Y が行為主体自身の場合である。いずれも Z は Y の状態を述べるために用いている。このように *mettre* を用いることで、はじめ状態 Z になかった Y が、X によって状態 Z にあるようになることを表現することができる。

## 2. 3. 作動中・行為中の状態

本節では、Z が作動状態または行為状態の場合を見る。たとえば電子機器が Y の場合、はじめ作動中ではない Y を、X が作動中にすることを *mettre* を用いて表すことができる。該当する例には (27) がある。

(27) (パソコンがハッキングされて) (. . .) il est avéré que le mot de passe permettant de **mettre l'ordinateur en fonction** a été “cassé” pendant le

week-end concerné. (*Le Monde*, 26 avril 1997 : 11)

(27) は、X が通電させるなどの行為によって、起動していないパソコンを作動中の状態にすることを *mettre* を用いて表す<sup>(4)</sup>。また機器によっては、作動中の状態にするだけで、その機器の役割を果たす場合がある。

(28) J'ai **mis** [la télévision, la clim] .

(29) ??J'ai **mis** [la télévision, la clim] *en marche*.

たとえば、(28) のテレビは作動中の状態にすれば、映像や音声を発するという役割を果たす。同じようにエアコンならば、作動させれば室温などを下げるといふ働きをするようになる。このように作動中の状態にするだけで、Y がその役割を果たす場合、(29) のように Z を添えると逆に不自然になる。

また、*mettre* を用いて他者を何らかの行為中の状態 Z にすることを表すこともできる。

(30) Remarquez, l'officier me l'a rendue ma montre. (. . .). Après, ils nous ont mis au travail, et pardon, pas de la moitié de travail, dix, douze et quatorze heures par jour, (. . .) (Ikor, R., 1966, *Les eaux mêlées*)

(31) Mes parents m'ont mis au sport pour que je m'endurcisse et que je devienne un homme! (*Le Monde*, le 26 décembre 2003)

他者を行為中の状態にするというのは、機械にスイッチを入れるのと同じようにして実現する。(30) であれば X は Y に強制労働を強いる立場にあり、(31) であれば X は Y の習い事を決定することが可能な立場にある。このように、Y が他者の場合であっても、X が Y を行為を伴う状態 Z にするのが自然な場合であれば、*mettre* を用いることができる。

そして、行為主体が自分自身を行為中の状態にすることを、*mettre* に *se* を添えて表すこともできる。

(32) Je voudrais rentrer en ville avant le coucher du soleil, et dormir un peu avant de me mettre au travail, dis-je.

(Murakami, H., 1992, *Le Fin des Temps*)

(33) Pour eux, les problèmes d'autonomisation, de socialisation, sont réglés. Ils

sont prêts à se mettre, le cas échéant, à la recherche d'un emploi.

(*Le Monde*, 25 mars 1998,)

(32) ならば, X ははじめ仕事ではない。そして X が仕事を開始するといふことは, 自分自身のありかたを仕事の状態にするである。同様に (33) も就職活動を開始することで, 行為主体自身のありかたを就職活動中にすることができる。

以上 X が Y を状態 Z にすることを表す場合に, *mettre* が用いられることをみた。

### 3. 行為移行用法

#### 3. 1. X *mettre* Y Z (à Inf.)

行為 Z を不定詞で表す場合も *mettre* を用いることができる。まず Y が物の例 (34), (35) を見てみよう。

(34) *Louissette descend et tend son maillot mouillé à Henri. Il le met à sécher devant le feu.* (Rohmer, E., 1983, *Pauline à la plage*).

(35) *Merthin leur remet une cuisse de mouton, un petit baril de vin et un florin d'or, prétendant ces cadeaux envoyés par Caris. Gwenda mit aussitôt le mouton à griller sur le feu.* (Follett, K., 2008, *Un monde sans fin*)

どちらも X がシャツを火の近くにかける行為や, 肉を火にかける行為を行う。その行為がきっかけとなって, (34) ならば Y が乾いていき, (35) なら Y が焼けていく。このように行為 Z を動詞で表す場合も, X の行為をきっかけとして, Y のありかたが切り替わる。ありかたが切り替わった後, Y は X が関与しなくても行為 Z を継続していく<sup>(5)</sup>。

また, Y が他者の場合, 通常 *mettre* を用いることができない。

(36) \* Claude **met** Camille {à faire la cuisine|à laver la vaisselle}.

(Saunier, 1999 : 259)

一般に, Y が Z を行うには, Y の意志があることが前提となる。ところが



*mettre* で表すのは、X が Y を物を扱うかのように、行為 Z に移行させることである。しかし、そのような場面は想定しづらい。そのため、Y が人の場合は、原則として *mettre* を用いることができない<sup>(6)</sup>。

### 3. 2. 始動表現 *se mettre à Inf.* と文法化

Y が行為主体自身の場合は、容易に *mettre* を用いることができる。

(37) «Tu (=Nicolas) joues à la poupée?» elle m’a demandé Louissette, et puis elle s’est mise à rire. (Goscinnny, R. 1960, *Le Petit Nicolas*)

(38) – Ce que je vais faire? Eh bien, c’est pas compliqué : je me mettrai à travailler et serai toujours honnête. (Charrière, H., 1969, *Papillon*)

(39) Ernest, en voulant parler de lui, se mit à bégayer.

(David FOENKINOS, 2004, *Le potentiel érotique de ma femme*)

X が自分自身を行為 Z に移行させることを表す。(37) ならば、ニコラ少年が人形で遊んでいるのを見てルイゼットが笑い出す場面である。ルイゼットが笑い出すことで、自分自身のありかたを「笑っている」状態に移行させる。(38) も同様に、X が自分自身を「働いている」状態に移行させる。(39) も X が自分自身を「口ごもっている」状態に移行させる。

このようにして *se mettre à Inf.* は、*mettre* の基本義を発揮する空間領域から離れ、行為 Z の開始を表すための始動アスペクトマーカとして働いていると言える。

そして、このような考えが妥当であることを支持する事例として、非人称構文における *se mettre à Inf.* の使用を挙げることができる。

非人称構文は、主語が *il* であって、X ではない。そのため本来ならば *mettre* を使うことはできないはずである。ところが、非人称構文で *se mettre à Inf.* を用いることは珍しくない。

(40) Le ciel s’obscurcit encore et il se met soudain à pleuvoir.

(Werber, B., 2006, *Le miroir de Cassandra*)

(41) Plus tard, il se mit à neiger, au début, puis à grêler comme d’habitude tan-

dis que le vent se levait. (Arnaud, G.-J., 1981, *La compagnie des glaces Tome 4 ; les chasseuses des glaces*)

- (42) Mais la nuit est tombée, et il s'**est mis** à faire *sacrément froid*, cet hiver-là était plus froid qu'un boisseau de tétons de sorcières, (. . .)

(Dan, S., 1991, *Nuit d'été*)

(40) であれば、雨が降っていない状況から雨が降っている状況に切り替わる。同様に (41), (42) も、雪が降っていない状況から降っている状況に、寒くない状況から寒い状況に移行する。そして、行為 Z が開始することを *se mettre à Inf.* で表す。

以上のことから *se mettre à Inf.* は、行為 Z の開始を表すアスペクトマーカ―として機能しているといえる。

行為 Z の開始を表すアスペクトマーカ― *se mettre à Inf.* には、*mettre* の特徴がみられる。*mettre* を用いる際、話し手にとって重要なのは、場所 Z に Y が存在していないのか、それとも存在しているかという点である。このような特徴は *se mettre à Inf.* の *Inf.* として用いられる動詞の傾向にも現れる。(43) は、我々のコーパスで、もっとも頻繁に *se mettre à Inf.* の *Inf.* として用いられた動詞の一覧である。

- (43) rire (1500 回), pleurer (929 回), courir (804 回), trembler (623 回), hurler (618 回), parler (546 回), crier (410 回), faire (368 回), tourner (313 回), chanter (274 回), battre (273 回), marcher (271 回)

特に多く検出された動詞は *rire* や *pleurer* である。この二つの動詞が表す行為は、基本的に X がコントロールすることのできない行為である。そして、それぞれの行為の開始について言及する際、どのように展開する行為なのかを開始前に意識することや、どの程度行為が進行したのかを開始後に意識する機会はありません。つまり *rire* や *pleurer* は、それらが表す行為の内部展開よりも、行為の有無が分かることが大事であることの多い動詞だと言える。同じことは (43) で挙げた他の多くの動詞についてもあてはまると考えられる。

また、この特徴から共に用いられる動詞の語彙アスペクトにもある程度の傾

向が認められる。「活動動詞 (action verb)」, 「達成動詞 (accomplishment verb)」, 「到達動詞 (achievement verb)」, 「状態動詞 (state verb)」の内, 活動動詞が *se mettre à Inf.* の形と特に相性がよい。実際に, (37)~(42) で *se mettre à Inf.* の *Inf.* として用いられた動詞の多くや, (43) で挙げた動詞のほとんどが「活動動詞」に分類される動詞である。しかし, 達成動詞や, 到達動詞, 状態動詞を *se mettre à Inf.* の形式で用いることも不可能ではない。

(44) Elle se met à écrire un roman de science-fiction qui projette le lecteur deux siècles et demi plus tard. (*Le Monde*, le 6 mars 1998)

(45) Les uns après les autres, les animaux d'élevage se mirent à mourir de maladies inexplicables.

(Robillard, A., 2012, *A. N. G. E Tome 6 : Tribulare*)

(46) – Je me suis mis à être particulièrement cruel envers les animaux»

(Douglas, A., 2001, *La Vie, l'Univers Et Le Reste*)

(44) のように達成動詞と *mettre* が用いられる場合をみてみよう。話し手が問題としているのは, 小説がどの程度書けているかではない。X が小説を書くという行為を行っているか行っていないかである。このように話し手が達成動詞が表す行為の有無に着目している場合に, *se mettre à Inf.* の形で行為 Z の開始を表す。

また *mourir* のような到達動詞は *se mettre à Inf.* と相性がよくない。(45) のように *mourir* を *se mettre à Inf.* の形式で用いる場合, 一人一人の死を問題とするのではない。複数の行為主体が死んでいく事態の有無を問題として, 該当する事態の開始を *se mettre à Inf.* の形で表す。

そして *être* のように主体のありかたを表すために用いる状態動詞も, *se mettre à Inf.* と相性が悪いようだ。しかし (46) のように *se mettre à être particulièrement cruel* ということ「動物に対して残酷ではない」状態から「動物に対して残酷である」状態に切り替わることを表すことができる。

以上, 行為 Z を動詞で表す場合に, 行為 Z に移行することを表すために用いる *mettre* の考察を行った。

## むすびにかえて

本稿では *mettre* の本質的な働きを考察することで、なぜ *se mettre à Inf.* が「行為の出現」の表現として用いることができるのかを見た。

まず、Z が場所である場合を見た。X が Y が Z にあるようにすることを *mettre* を用いて表す。Y を物のように扱うため、Y が人の場合など *mettre* を用いるのが難しいことがある。

また、*mettre* は Y の価値が変化することや、Y の状態 Z になること、Y が行為 Z をしている状態に移行することを表すために用いることができる。特に Y が自分自身の場合、Y を行為 Z を行っている状態に移行させるということは、X が行為を開始することに他ならない。さらに非人称構文で用いることができることから、*se mettre à Inf.* が行為の開始を表すアスペクトマーカ―として文法化が進んでいることが伺える。

今後は *se mettre à Inf.* の形で用いる動詞の傾向をより詳しく調査する他、共起する副詞なども調べていくことで *commencer à Inf.* との意味的差異に関する研究につなげていきたい。

## 注

- (1) 話し手の関心は場所 Z に対象 Y が存在するかどうかである。そのため *de* などの前置詞を用いて対象 Y がはじめどこにあるのかを述べるのは難しい。
- (2) 対象の位置変化を表す動詞には *poser* や *placer* などがある。Saunier (1999) や小熊 (2009) の指摘の通り *poser* や *placer* を用いることができない場合でも、*mettre* を用いることができる場合がある。このように *mettre* には、これらの動詞とは異なる特徴がある。しかしページ数の都合上本稿では詳しくは言及しない。
- (3) ただし、娘が自宅に年老いた父親の世話をするために、一緒に住んでいるような状況であれば、不自然ではなくなる。
- (4) 通電させる行為そのものは *allumer* などの動詞を用いて表すことができる。*mettre* は X の行為と、それによる Y のありかたの変化を話し手が意識している場合に用いる。
- (5) 小熊は、Y と Z の組み合わせによっては容認度が下がる場合があるとして *mettre*

la viande à rôtir/?griller, mettre les pommes de terres à mijoter/?à sauter を挙げている。そして容認度が低い Y と Z のペアについて、その原因を「行為主体の介入度が高いから」と説いている。

- (6) ただし、Le Grand Robert 2011 にもあるように、Y が人の場合であっても mettre を用いることが不可能であるとは言い切れない。

(i) Quand les enfants sont trop jeunes, (. . .), on les met à dormir dans la brouette ou si l'environnement le permet, à même le champs, sur une couverture. (Quinquis, J., 2007, Finistère 1900–1925)

たとえば (i) ならば、一人前の人間と見なされていない子供が Y である。Y の寝る場所は、X である親の都合で決められており、X と Y は同じ人間として扱われていないことが分かる。このようにまるで物のありかたを変えるように、親が子供のありかたを変化させる場合などに限り、X mettre Y Z (inf) を用いることができる。

### 主要参考文献

- Francel, J.-J. (1989), Etude de quelques marqueurs aspectuels du français, Librairie Droz, 142–147.
- Peeters, B. (1993) “commencer et se mettre à : une description axiologico-conceptuelle”, *Langue française*, 98, 24–47.
- Saunier, E. (1996) : Identité lexicale et régulation de la variation sémantique. Contribution à l'étude des emplois de mettre, prendre passer et tenir, Thèse, Université de Paris X-Nanterre.
- (1999) “Contribution à une étude d'inchoation : se mettre à + inf. Contraintes d'emploi, effet de sens et propriétés du verbe mettre”, *Cahiers Chronos*, 4, 259–288.
- 大橋保夫 (1993) 「フランス語は明瞭な言語か」『フランス語とはどういう言語か』, 駿河台出版社, 63–65。
- 小熊和郎 (2009) 「Mettre の柔軟性と制約」『西南学院大学フランス語フランス文学論集』52, 西南学院大学学術研究所, 1–26.
- 佐藤淳一 (1994) 「se mettre à/commencer à の意味価値について」『フランス語研究』28, 日本フランス語学会, 30–36。
- 染谷聡 (2005) 「フランス語 mettre の意味構造 (semantic structure of mettre in French)」『早稲田大学大学院教育学研究紀要 別冊』, 13–1, 317–325.
- 谷口千賀子 (1991) 「commencer à と se mettre à の意味的差異」, 『人文論究』41–3, 関西学院大学文学部, 140–148。